

## 第5回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年4月23日（火）  
18時～19時30分  
会場：長野東高等学校会議室

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 挨拶

#### 3 会議事項

- (1) 第4回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 令和6年度の懇話会スケジュール（案）について
- (3) 長野東スーパーフレックス新校再編実施基本計画 学びのイメージ素案  
について
- (4) 意見交換

#### 4 その他

次回の予定

- (日 時) 令和6年6月11日（火）18時から19時30分  
(場 所) 長野県庁西庁舎111号会議室  
(内 容) 長野東スーパーフレックス新校再編実施基本計画（案）について等

#### 5 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

(敬称略)

	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	西澤 雅樹	長野市	副市長
2		丸山 陽一	長野市教育委員会	教育長
3	産業界	塚田 まゆり	長野商工会議所	副会頭
4	学識経験者	茅野 理恵	信州大学学術研究院教育学系心理支援教育グループ	准教授
5		小林 勝彦	長野県専修学校各種学校連合会	理事長
6	地域	坪井 俊文	長野地域振興局	局長
7		堀江 三定	長野市スポーツ協会	理事長
8		伊藤 羊子	一般財団法人長野県文化振興事業団 芸術文化推進室	室長
9		戸井田 由奈	特定非営利活動法人長野県NPOセンター	コーディネーター
10	同窓会 振興会	西澤 敏	長野東高等学校同窓会	会長
11		和田 安雄	長野吉田高等学校戸隠分校同窓会	会長
12		鷲澤 幸一	長野高等学校定時制振興会	会長
13		塚田 篤雄	長野商業高等学校定時制振興会	会長
14		岡 正子	長野西高等学校通信制振興会	会長
15	PTA	宮下 匡弘	長野東高等学校PTA	会長
16		小林 優	長野市PTA連合会(小学校)	副会長
17		江口 康人	長野市PTA連合会(中学校)	副会長
18	小中学校等 関係者	小池 勲	長野市小学校長会(長水地区小学校長会)	会長
19		佐藤 裕美	長野市中学校長会(長水地区中学校長会)	会長
20		藤澤 里美	長野養護学校	校長
21		中島 秀明	県立高等学校長会定通部会長(松本筑摩高等学校校長)	会長
22	再編対象校	宮崎 真以星	長野東高等学校	生徒会長
23		宮尾 悟良		校長
24		柳澤 秀樹		教諭
25		吉岡 瑛	長野吉田高等学校戸隠分校	生徒会長
26		中澤 奏太		副会長
27		内藤 信一		校長
28		丸山 淳一		教諭
29		小出 淳	長野高等学校定時制	生徒代表
30		廣田 昌彦		校長
31		山本 俊介		教諭
32		中澤 由希	長野商業高等学校定時制	生徒会長
33		宮澤 美咲		生徒会副会長
34		有賀 浩		校長
35		寺嶋 龍也		教諭
36		奥山 敬斗	長野西高等学校通信制	生徒代表
37		小金 典子		校長
38		古澤 広人		教諭

【事務局】

学校名	氏名(役職等)
長野東高校	(教頭)峯村 勲 (教諭)柳澤 秀樹・安尾 光・栗原 聡・横打 史雄
長野吉田高等学校戸隠分校	(教頭)宮下 由夫 (教諭)丸山 淳一
長野高等学校 定時制	(教頭)小出 一也 (教諭)北島 匡晃・山本 俊介
長野商業高等学校 定時制	(教頭)島崎 剛 (教諭)寺嶋 龍也
長野西高等学校 通信制	(教頭)宮坂 洋子 (教諭)傳田 伊史・古澤 広人

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	原 多恵子	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	内山 みのり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

## 第4回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

<b>日時</b>	令和6年2月5日(月) 18時～19時30分		
<b>場所</b>	長野県庁西庁舎 111号会議室		
<b>出席 (敬称略)</b>	西澤雅樹、丸山陽一、塚田まゆり、茅野理恵、小林勝彦、尾島信久、堀江三定、伊藤羊子、戸井田由奈、和田安雄、岡正子、宮下匡弘、江口康人、小池勲、横澤秀信、宮崎真以、星桑原俊樹、柳澤秀樹、町田夢、倉島在音、内藤信一、丸山淳一、小出淳、廣田昌彦、山本俊介、中澤由希、宮澤美咲、三澤秀樹、寺嶋龍也、奥山敬斗、小金典子、野村浩史 (以上 32名)		
<b>欠席 (敬称略)</b>	西澤敏、鷺澤幸一、塚田篤雄、小林優、藤澤里美 平林洋一 (以上 6名)	<b>傍聴</b>	4名
<b>事務局</b>	長野東高校	峯村教頭(事務局長)、柳澤教諭、伊藤教諭、栗原教諭、齋藤教諭	
	長野吉田高校戸隠分校	小林教頭(副事務局長)、丸山教諭	
	長野高校定時制	功刀教頭、山本教諭	
	長野商業高校定時制	塩入教頭、寺嶋教諭	
	長野西高校通信制	青木教頭、傳田教諭、野村教諭	
	県教育委員会	柳澤主幹指導主事、山崎主任指導主事、内山主任指導主事	
<b>当日資料</b>	次第、構成員名簿、第3回懇話会まとめ、第3回懇話会グループワークで出された意見のまとめ、学校紹介パワーポイント資料、グループワーク関連資料、席図		

### 会議事項

- (1) 第3回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 統合対象校による学校紹介  
長野吉田高等学校戸隠分校・長野高等学校定時制・長野東高等学校
- (3) 学校像等に係る意見交換(グループワーク)

### 構成員から出された主な意見(要旨)

#### 【会議の概要】

- (1) 第3回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ  
前回懇話会でのグループ討議で出された意見の確認
- (2) 長野吉田高等学校戸隠分校・長野高等学校定時制・長野東高等学校の代表生徒から学校紹介
- (3) グループワークで出された主な意見

【テーマ：長野東スーパーフレックス新校を、生徒がどんなことをできる高校にしたいか。】

- ・学校規模が大きくなっても、少人数だから通学できていた生徒が通いたいと思える学校に。
- ・学業を大切にする。
- ・自由だが自覚をもって活動していける。
- ・多部制通信制の枠組みを超えた交流ができる。
- ・地域が育てる学校で戸隠の自然や地域の方を活かした学習や授業。
- ・自分で履修する時間割を自分で作成可能なカリキュラム編成。
- ・自分で何をやるか決めて、それに対して、頑張ったことを認める。
- ・スポーツ科学科や国際バカロレアなど特色ある学科で学べる。
- ・授業に限定せず、校外での体験を単位として認定。
- ・義務教育の履修主義の良さをシステムに組み込むこと。
- ・偏らず様々なベクトルで輝ける学校。
- ・切磋琢磨しながら、生徒が成長していける。
- ・小さなことでもいいので成功体験を積み重ねていく。
- ・オンライン教材「すらら」の利用で個別最適な学びができる。
- ・同じようなことを行う共同作業のなかで自分もできるという体験できる。

### その他

#### 【次回】

日時：令和6年4月下旬から5月上旬  
会場：長野東高等学校会議室  
内容：新校の学びのイメージについて 等

「長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会」のスケジュール（案）

高校再編推進室

年度	月・日	懇話会	内容
令和5年度(2023年度)	9月12日	第1回懇話会	○「県教委より説明」 ・実施方針、三次案の説明
	10月23日	第2回懇話会	○目指す学校像(ビジョンの共有) ・先進高校関係者による講演会 (講師)福岡県立博多青松高等学校校長 工藤宏敏 先生
	12月19日	第3回懇話会	○目指す学校像 ① ・各校生徒等による発表(学びの紹介や新校への要望等) ・グループワークによる意見交換
	2月5日	第4回懇話会	○目指す学校像 ② ・各校生徒等による発表(学びの紹介や新校への要望等) ・グループワークによる意見交換
令和6年度(2024年度)	4月23日	第5回懇話会	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>&lt;意見交換項目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校像、新校の学び</li> <li>○設置課程</li> <li>○活用する校地・校舎</li> <li>○募集開始年度</li> <li>○募集学級数</li> </ul> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff9c4; display: inline-block; margin: 5px 0;">教育委員会定例会で決定</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff9c4; display: inline-block; margin: 5px 0;">県議会で同意</div> <p>≡</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e1f5fe; display: inline-block; margin: 5px 0;">校名、学校運営、地域協働、進路、生徒会、校歌・校章など細部にわたる具体的な検討を進める。</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e1f5fe; display: inline-block; margin: 5px 0;">新校開校まで随時(3~4回/年)開催予定</div> <p>↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #2196f3; color: white; display: inline-block; margin: 5px 0;">新校開校</div> </div>
	6月11日	第6回懇話会	
	・	・	
	・	・	
	・	・	

長野東スーパーフレックス新校懇話会グループワークで出された意見のまとめ

(1) 学校像

第3・4回懇話会グループワークで出された意見	まとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒が育つ。</li> <li>多様性に対応できる。</li> <li>多様な学びが保障される学校</li> <li>万人を受け入れる学校</li> <li>これがあるから行きたいという学校</li> <li>生徒の現状に対応できるように。</li> <li>やりたいことができる学校</li> <li>生徒が主体的に活動できるための環境がある学校</li> <li>産業界も巻き込んで地域が育てる学校</li> <li>様々な事情を抱える生徒に対応したあたたかい教育ができる学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒が育つ学校</li> <li>多様な生徒を受け入れる学校</li> <li>多様な学びができる学校</li> <li>あたたかい教育ができる学校</li> <li>やりたいことができる学校</li> <li>産業界も巻き込んで地域が育てる学校</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価を高められるような成功体験が積み重ねられる学校</li> <li>自己肯定感を積み重ねられる学校</li> <li>自信をつけられるような学校</li> <li>生徒が胸を張れる学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成功体験が積み重ねられる学校</li> <li>自己肯定感を積み重ねられる学校</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分探しができる学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分探しができる学校</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>切磋琢磨できる学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切磋琢磨できる学校</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>5校それぞれの良さを取り入れる、融合させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統合校5校の良さを融合した学校</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ハード、ソフトを含めて既成のものや既成概念を取り払って進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既成概念にとらわれない学校</li> </ul>

(2) 育成したい生徒像

第3・4回懇話会グループワークで出された意見	まとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の特性を活かそうとする。</li> <li>オリジナリティーを見つけれられる。</li> <li>自分らしくできる。</li> <li>生徒が様々な面で輝ける学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分らしさを活かし、輝ける生徒</li> <li>自由な環境のなかでも自覚をもって行動できる生徒</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自由だが、自覚を持って行動できる生徒</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>多様性に対応できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様性に対応できる生徒</li> </ul>

(3) 学びの柱

第3・4回懇話会グループワークで出された意見	まとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学びが保障される学校 (やりたいことができる学校)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学び (やりたいことができる学び)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生きる力をつけられるような学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生きる力をつける学び</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>能力がとびぬけている子を伸ばす、得意な分野を伸ばすことで特色が出せるのではないかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>得意な分野を伸ばせる学び</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ学科などの特徴を作ったらかどうか。</li> <li>国際バカロレアやスポーツ学科などの特色ある学科があり学べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある学び (特色ある学科の設置)</li> </ul>

(4)具体的な取組み ①

		第3・4回懇話会グループワークで出された意見	まとめ
①学び	カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学びの保障</li> <li>やりたいことをみつけられたり、アプローチできるような学びを設定する。</li> <li>多様な生徒が卒業できるカリキュラムに。</li> <li>多様性に対応するためのカリキュラムの工夫</li> <li>地域資源を活用したカリキュラムを作成する。</li> <li>戸隠の環境を活かした学び</li> <li>勉強が苦手、不登校、集団が苦手な生徒が救われるシステムを残してほしい。</li> <li>小中の復習学習ができる。</li> <li>復習ができるシステム</li> <li>キャリア教育を重視する。</li> <li>学校が決めた枠の中の単位を生徒に学ばせるのではなく、生徒が主体的に取得する単位をデザインすることを考えてもよいのではないか。</li> <li>自分でカリキュラムをくむ。(教員にアドバイスをもらいながら。)</li> <li>大学のミニ版</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な学びの保障</li> <li>地域資源の活用</li> <li>学び直しができるカリキュラム</li> <li>キャリア教育の充実</li> <li>生徒自身がカリキュラムを組む。</li> </ul>
	授業関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔授業の活用</li> <li>外部の力をかりる。(移住者の話を聞くなど。)</li> <li>外部講師として一般の方を活用した授業を行う。</li> <li>オンライン教材の活用</li> <li>AI(すらら等)の積極的な活用→単位認定(教員の負担軽減になるように)</li> <li>街中にあるサテライト教室のようなモノの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な学びを設定</li> <li>遠隔授業の活用</li> <li>外部講師の活用</li> <li>オンライン教材の活用</li> <li>サテライト教室の設置</li> </ul>
	単位認定に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で学ぶことを決めて、頑張ったことを単位として認めるシステム</li> <li>授業だけでなく、色々な体験が単位として認められるようにする。</li> <li>学校外における学修に係る単位認定</li> <li>スポーツや文芸活動など学校外での活動を単位として認定すべき。</li> <li>夢に挑戦する対価を単位として認める。(インターン、大会の実績など。)</li> <li>公民館と連携した活動等(異世代との交流なども)の参加を単位として認める。</li> <li>2期制で半期の単位認定は単位が取りやすいシステムでなので取り入れてほしい。</li> <li>AI(すらら等)の積極的な活用→単位認定(教員の負担軽減になるように)</li> <li>単位互換ができるように。</li> <li>補習をして単位を認める。</li> <li>長期合宿などで欠席となる授業をリカバリーができればいい。</li> <li>義務教育の履修主義の良さを取り入れる。</li> <li>生徒の努力を教員側で評価できる絶対評価の観点を大事に。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単位履修・修得の工夫</li> <li>学びたいことを自分で決めて学ぶ。</li> <li>学校外での活動の成果を単位認定する。(スポーツ・文芸活動・探究活動・インターンシップ、ボランティアなど夢に挑戦するための活動)</li> <li>・ Semester制の導入(半期で単位認定する。)</li> <li>欠課した授業をリカバリーできるようなしくみを考える。</li> <li>履修主義や絶対評価の観点を取り入れる。</li> </ul>

(4)具体的な取組み ②～⑦

	第3・4回懇話会グループワークで出された意見	まとめ
②部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特徴的な部活動ができる環境を整える。</li> <li>・スポーツなどの特化したものを作る必要があるのではないか。(一部のクラブで全国募集するなど。)</li> <li>・部活動は活発であってほしい。</li> <li>・多部制では練習時間が合わせにくいと特色ある部(駅伝、水球、そば部など)を大切に。</li> <li>・プロスポーツとの連携も考えられないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校内外でやりたい活動が活発にできる環境を整える。</li> <li>・特色となる部活【駅伝・水球・そば部など】の環境整備</li> <li>・プロスポーツとの連携</li> </ul>
③サポート体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団が苦手な生徒にも対応できるように。</li> <li>・さまざまな特性を持った生徒への対応</li> <li>・大きな枠に入れない生徒を助けてあげられるシステムも取り入れてほしい。</li> <li>・単位修得にしばられて、生徒がつぶれないように。</li> <li>・目指したいものがある生徒へのサポート体制の充実</li> <li>・生徒が主体的に活動できるための環境がある学校</li> <li>・生徒のケアができるように。</li> <li>・親でも先生でもない人と相談できる場があるといい。(人がいるとよい。)</li> <li>・スクールカウンセラーの常駐</li> <li>・産業界も巻き込んで地域が育てる学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○充実したサポート体制</li> <li>・SCやSSWの常駐</li> <li>・就職・進学アドバイザーの活用(外部組織との連携)</li> <li>・産業界も含めた地域連携</li> </ul>
④施設面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が第三者に気軽に相談できるような施設の設置</li> <li>・通級のような居場所</li> <li>・空き時間の居場所</li> <li>・教室数を増やす。</li> <li>・生徒が職員室に気軽にに入れて相談しやすい場に。</li> <li>・博多青松高校のような食堂があるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者に相談できる場所の設置</li> <li>・多目的に使用できる居場所の設置</li> </ul>
⑤生活全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制と通信制の枠組みを超えた交流ができる。</li> <li>・西高通信のよさ(少人数)をなくさないようにしてほしい。</li> <li>・HR活動は大切にしたい。(担任制)</li> <li>・無学年制</li> <li>・夜型の生徒もいるので学校の始業時間を柔軟に。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な生徒同士の交流を活発にできる学校</li> <li>・課程間での連携、交流ができる。</li> <li>・無学年制</li> </ul>
⑥職員配置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員体制の充実(定数を柔軟に)</li> <li>・教員が定時制、通信制どちらにも所属できるようにする。</li> <li>・休暇がとりやすいような組織作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員体制の工夫</li> </ul>
⑦その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間口を広げて自信をつけさせてほしい。</li> <li>・現在の長野東高校の場所であるなら無償のスクールバスの運用が必要</li> <li>・ハード、ソフトを含めて既成のものや既成概念を取り払って進めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選抜方法の工夫</li> <li>・通学支援の検討</li> </ul>

## 生徒自らが、生活・学習スタイルに合わせて学びをマネジメントできる学校

### 目指す 学校像

- 一人ひとりにあった学習スタイルと個別最適な学びを提供できる学校
- 柔軟な学びの仕組みを活かし、学校内外でやりたいことを追求できる学校
- 地域資源を活かしたキャリア教育を通して、自己肯定感を高められる学校

### 育成したい 生徒像

- 苦手なことにもチャレンジし、自分の未来を主体的に創り出そうとする生徒
- 夢の実現に向けて行動し、得意な分野で輝ける生徒
- 多様な生き方を尊重し、豊かな人間関係を築ける生徒

### 学びの柱

- 地元の大学・専門学校等の教育機関と連携し、極めたい分野を徹底的に学ぶ。
- 自分に合った学び方と学習内容を選択でき、自分のペースで学ぶ。
- 地域や産業界と協働し、生きる力を学ぶ。

### 具体的な 取組み

定時制  
(三部制)

所属変更可能

通信制

所属  
自由

多種多様な  
単位認定方法

組合せ  
自由

学び方  
自由

学習の個別最適化  
EdTech活用

地域と協働した学び

校外活動・資格取得等  
卒業単位認定

スポーツ・芸術活動等  
本格的な取組み

### 具体例

- ・生徒自身がカリキュラムを組む。
  - ・戸隠などの地域資源を活かした学びができる。
  - ・EdTech(テクノロジーを用いて教育を支援する仕組みやサービス)を積極的に活用する。
  - ・学校内外での活動の成果を単位認定する。
  - ・ Semester制(半期履修)の導入
  - ・無学年制
  - ・課程間の連携
  - ・特色となる部活【駅伝・水球・そば部など】の環境整備やプロスポーツとの連携
  - ・充実したサポート体制(SCやSSW)
  - ・進学、就職アドバイザーの活用
- など

# 長野東スーパーフレックス新校（仮称）の学校像として考えられる姿

## 多部制

【午前部・午後部・夜間部】

時間	所属	午前部	午後部	夜間部
1限	所属	受講可能	所属	受講可能
2限				
3限				
4限				
5限	受講可能	所属	所属	受講可能
6限				
7限				
8限				
9限	所属	受講可能	所属	受講可能
10限				
11限				
12限				

所属変更可能

## 通信制

【新たな通信制】

添削指導



面接指導



テスト

(希望により)

週1日

～

週5日

- ・探究活動
- ・地域連携
- ・部活動等

単位認定

所属自由

組合せ自由

学び方自由

学習の個別最適化

EdTech活用

地域と協働した学び

校外活動・資格取得等

卒業単位認定

スポーツ・芸術活動等

本格的な取り組み

多様な生活・学習スタイルに応じて、フレキシブル(柔軟)に『学びをマネジメント』

# 須坂新校（仮称）再編実施基本計画

## 1 再編統合対象校

須坂東高等学校、須坂創成高等学校

## 2 募集開始（開校）年度

令和 11 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 11 年度を新校の募集開始年度とする。

## 3 活用する校地・校舎

須坂創成高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、専門科と新たな普通科（仮称：みらいデザイン科）の連携を実現していくために、須坂創成高等学校の施設・設備を活用する。

部活動など生徒の自主的活動のため、引き続き旧須坂商業高等学校のグラウンドや体育館等の施設を活用する。

## 4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 農業科・工業科・商業科・みらいデザイン科（仮称）

4 学科あわせて 7 学級程度を想定

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

みらいデザイン科（仮称）は、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正）により設置可能となった「新たな普通科」の 1 つである、地域社会に関する学科<sup>※</sup>として設置する。また単位制を導入し、他学科の授業も選択できる、個別最適な学びにふさわしい教育課程を編成する。

北信地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7 学級程度が想定される。

注）現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科。

## 5 学びのイメージ

別紙のとおり

地域をフィールドとした探究を学びの中心に据え、「実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校」を構想する。

## 6 施設整備

新校の学びに必要な施設及び、地域連携の実現のため必要な機能の整備を図る。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

生徒像  
育てたい

- 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒
- 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者とつながり、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒

学校像  
目指す

- 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む
- 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む
- 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む

地域の未来を、地域の方々と共に創る  
**コミュニティデザインハイスクール**



4学科の連携で地域の未来づくりに参画



学びの柱

- ◆ 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICTを積極的に利活用

具体的な取組

- 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など）
- 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など）
- 生徒自らが学校を創造していく自主的活動（生徒会活動と部活動）
- 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

単位制

連携

学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化  
学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に  
コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携  
地域を学ぶ国内外の高校生と交流

地域の方々との共同研究

**須高地域共学共創コンソーシアム**

新校が生涯学習の拠点

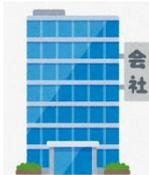
大学・専門学校

医療・福祉機関

地元企業・商工会

自治体

研究機関



# 中野総合学科新校（仮称）再編実施基本計画

## 1 再編統合対象校

中野立志館高等学校、中野西高等学校

## 2 募集開始（開校）年度

令和 12 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 12 年度を新校の募集開始年度とする。

## 3 活用する校地・校舎

中野立志館高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、学びを支える施設・設備等の学習環境、隣接施設の有用性の観点から中野立志館高等学校の校地・校舎を活用する。

## 4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 総合学科 7～8 学級程度

定時制課程 普通科 1 学級

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

総合学科のシステムを使いながら、持続可能な社会づくりの担い手を育てていくための多彩な教科・科目を開設する。

募集学級数は、旧第 2 通学区の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7～8 学級程度が想定される。

現在の中野立志館高校定時制は、中野総合学科新校に移管する。

## 5 学びのイメージ

別紙のとおり

中野立志館高校の総合学科、中野西高校のユネスコスクール<sup>注1</sup>の学びを継承し、ユネスコスクールの中心的な学びである ESD（持続可能な開発のための教育）<sup>注2</sup>をベースにグローバルな人材育成を目指す、地域全体を学びのフィールドとした地域の学びの拠点となる総合学科高校を構想する。

注 1) ユネスコスクール：ASPnet (UNESCO Associated Schools Project Network)

・ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校

注 2) ESD (Education for Sustainable Development)：持続可能な開発のための教育

・人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できる社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動

## 6 施設整備

新校の学びに必要な施設設備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

# 未来に挑戦するための総合学科高校

目指す学校	○挑戦	様々なことに挑戦し、失敗しても粘り強く取り組む力を育む
	○創造	自己と他者を見つめ、社会と積極的に関わりを持ち、変化に柔軟に対応できる創造力を育む
	○協働	地域から世界まで、幅広い視野を持ち、他者と協働し未来社会に貢献できる人を育てる

## 総合学科×ESD(持続可能な開発のための教育)

キャリアデザイン

多彩な科目

探究学習・ESD

### ○多様な進路希望に対応できる教育課程

- 自分だけの時間割を作成
  - ・キャリアデザイン・ライフデザインに繋がる多彩な系列(科目群)から自由に選択
  - ・大学進学に特化した科目選択も可能
- バラエティーに富んだ学び(系列=科目群)
  - ・普通科目(国語、数学、外国語、芸術等)と専門科目(工業、商業、農業、家庭等)に加え、デジタル(AI、ロボット)、福祉、観光等の現代的な課題にアプローチする学び

### ○自分の「好き」や「強み」を究める学びを卒業単位として認定

- 単位制の自由度を活かした学校外の様々な取組などを単位認定
  - ・ボランティア活動や長期インターンシップ等の体験的な学び
  - ・英検・漢検などの各種資格取得
  - ・長期・短期の海外留学
  - ・大学生や地域の方とともに取り組む自主的な探究活動
- オンラインの活用等による学び
  - ・大学の講義の受講(先取り履修)、専門学校での体験的な授業や他の高校の授業の履修

### ○環境、地域の課題や国際理解について地域と協働して取り組むESD

- 地域全体を学びのフィールドとした学習活動
  - ・多様性受容力を高め、学びを深めるための地域共学共創コンソーシアムとの連携(地域の人などを外部講師として活用した授業、地域と協働したフィールドワーク等)
- 異文化理解を深めるための海外との交流や海外留学への支援
  - ・国内外のユネスコスクールとの交流やESD協働学習
  - ・国内外の姉妹校との交流
  - ・地域の教育資源(観光等)を活用した国際交流
  - ・地球規模の課題(平和、貧困・格差等)に取り組むための学校が独自に設定する科目
  - ・信州つばさプロジェクトの積極活用

### 地域共学共創コンソーシアム



大学・専門学校  
幼保小中高



研究・医療  
福祉機関

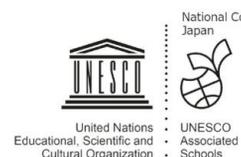


地域産業



自治体

### ユネスコスクール



【中野立志館高校の定時制課程は中野総合学科新校に移管】